

神奈川新聞

「海きれいですか」

白幡小とテレビ電話で児童ら交流
米サンディエゴ



モニターに向かってサンディエゴの暮らしなどについて質問する児童
—神奈川区の市立白幡小学校

環境や生活互いに質問

日米の小学生が、テレビ電話で交流する「TV会議」が18日、横浜市立白幡小学校（横浜市神奈川区）で開かれた。同小6年生と米国カリフォルニア州サンディエゴ市・モーニングクリーク小学校の5年生の代表10人が互いの生活や環境について、モニター越しに会話の花を咲かせた。

「サンディエゴの海はきれいですか」「横浜に関する施設などはありますか」。質問を英語に翻訳してもらいながら児童たちが質問。モーニングクリーク代表の永松亜純さん（11）

は、横浜の「三溪園」にちなんで「三景園」と名付けられた日本式庭園がサンディエゴ市内にあることを知り、「横浜とサンディエゴにはいろんな開わりがあることが分かりました」。山之口涼太さん（11）は「外国の人と話せて楽しかった。海水浴がいつまでできるかなど、もっとサンディエゴの海のことを聞いてみたい」と話していた。

白幡小は海洋保護学習に力を入れており、2012年から、デイビッド・ロックフェラー・ジュニア氏が名誉会長を務める米の海洋保護団体日本支部の理事を同校に招き、ワークショップなどを行っている。ロックフェラー名誉会長は姉妹都市である両市の交流促進を横浜市に提案していることから、林文子市長がかつて訪問したモーニングクリーク小と、白幡小の交流が始まった。

朝日新聞

米国の小学校とTV会議で交流

神奈川区の白幡小

横浜市神奈川区の白幡小学校6年生が18日、市の姉妹都市で米国西部サンディエゴのモーニングクリーク小学校5年生と、テレビ会議で交流した。今回は初めての試み。子どもたちは練習した英語で自己紹介をし、交流を楽しんだ。

白幡小学校では6年生12人が図書室に集合し、モニター3台に映し出されるサンディエゴの子どもたちの様子に注目。両校とも代表数人が、一人ずつカメラの前で自己紹介し、通訳を介して質問した。米国からは、「横浜へ行くとしたらどこがいいですか」「お昼ご飯には何を食べるか」と尋ねられた。子どもたちは横浜の町や自然を紹介。写真を見せながら給食や弁当を説明していた。

交流後、佐久間菜々子さんは「英語を勉強して、今度は通訳なしで交流してみたい」。加藤真緒さんは「サンディエゴに行ってみたくなった」。両校は環境教育などでもつながりがあり、今年度中にも次の交流会を持ちたい考えだ。



購読・配達のご用は ☎0120・33・0843 (7:00~21:00)	広告のご用は ☎045・641・5151	折り込みのご用は ☎045・227・6981
--------------------------------------------	-------------------------	---------------------------

花情報 県東部 少ない
県西部 やや多い

本校は昨年度よりアメリカのサンディエゴにあるモーニングクリーク小学校と、交流を始めました。今回は両校の6年生がTV会議を行いました。太平洋を東西両側から守っていこうというキーワードのもと、これからも活動を続けていきます。